

広報

あいづばんげ

8 2016 No.624

特集

ばんげの早乙女踊り





栗村稻荷神社で披露された早乙女踊り

例大祭・御田植祭

7月6・7日の両日、栗村稻荷神社例大祭・御田植祭が行われました。

6日からは、町民体育館内で七夕書道展が行われ多くの力作が展示されました。

7日はあいにくの曇り空となりましたが、栗村稻荷神社のご神体をうつしたお神輿を担ぎ、天狗様を筆頭に町内を練り歩く神輿渡御、校内の予選を勝ち抜いた強者が集まる奉納親善相撲大会など、さまざまな行事が各地で行われました。

そのなかでも、毎年町内外から集まった多くの人々を魅了している早乙女踊りは、町内4か所にある道の駅あいづ湯川・会津坂下を加えた計5か所で披露され、盛大な拍手に包まれて踊りを終えました。

五穀豊穡を祈って踊られる早乙女踊りは、古くから新館地区に伝わり、栗村稻荷神社に奉納されてきましたが、後継者不足などにより平成16年から3年間奉納が休止されていました。

現在では、一般の方により結成された「早乙女踊り保存会」に加え、会津農林高等学校の女子生徒による「早乙女踊り保存クラブ」が伝統の継承を担っています。

「早乙女踊り保存クラブ」は、今年で結成9年目となり、記念すべき10周年が間近に迫っています。

3年間という限られた時間のなか、伝統芸能の継承に取り組む30名の「早乙女」たちの、本番当日までの姿を追います。



神輿御渡



栗村稻荷神社

奉納 親善相撲大会



きれいな町を
ありがとう

ボランティアでごみ拾い・パトロールをしていた東北入谷まちづくり建設のみなさん。昨年から「町のために何か貢献できることはないか」という思いで始めた活動です。



早乙女たちの舞台ウラ



サーヨナ
 舞い込んだよな
 舞い込んだよ
 千秋楽と舞い込んだ
 ソーコヨ
 一番目の申す御子がまた
 侍方となされた
 ソーコヨ
 侍方に取りてはまた
 弓矢を取るのがよいとな
 ソーコヨ
 二番目の申す御子がまた
 商人方となされた
 ソーコヨ
 商人方に取りてはまた
 算盤取るのがよいとな
 ソーコヨ
 せんびき せんばんばた
 荷をつけいだす
 それで高いするの
 か
 ソーコヨ
 三番目の申す御子がまた
 百姓方となされた
 ソーコヨ
 百姓方に取りてはまた
 くわ かま取るのがよいとな
 ソーコヨ
 七十五間の館をたてて
 それで百姓するの
 か
 こころでおいとま申され早乙女
 方
 これが坂下の御さなぶり



「会農の歴史と一緒に、 早乙女踊りの歴史を 私たちがつくっていききたい」

クラブに対する思いをこのように語ってくれたのは、会津農林高校「早乙女踊り保存クラブ」で部長を務める3年生の**大伴颯希さん**。大伴さんは会津若松市出身で、高校に入学して初めて会津坂下町に伝わる伝統芸能「早乙女踊り」のことを知ったという。

「早乙女踊り保存クラブ」は、消滅しかけた早乙女踊りをなんとか継承していこうという働きかけのもと、会津農林高校の生徒会である志学会に所属する女子生徒たちから始まった部活動である。

平成20年の発足当初は9名で「舞い方」のみの披露となったが、翌年から志学会だけでなく在校するすべての女子生徒に公募をかけ、「舞い方」以外の笛や太鼓、歌いのすべてを網羅するようになった。

練習は、早乙女踊りの披露の場となる御田植祭の約1か月前から始まるが、当然入部したての1年生は未経験者ばかり。

部が結成されてからしばらくの間は、新館地区の早乙女踊りを踊れる先生から指導を受けていたが、近年では先輩から後輩へ、「会農の早乙女踊り」が受け継がれている。

「部員は、入部するとまず踊り、歌、笛、太鼓のいずれかのパートに分かれます。基本的には、3年間同じパートを続けることになりません。」

大伴さんは、羽子板や棒、花笠を操り観客の視覚を魅了する踊りを担当している。後輩への指導には、なかなか難しい部分もあるという。

「**私自身、口下手なところもあるので、わかりやすく説明することに苦労しています。特に踊りの細かい部分は、言葉で表現するのがすごく難しい。**」

早乙女踊りの練習は、それぞれのパートごとに習得することから始まり、6月中旬ごろに全体での総仕上げに移る。

直前には、一般の方により結成された「早乙女踊り保存会」との合同練習も行われ、本番に向けて磨きをかけていく。

7月4日の合同練習で、「腕の動きがスムーズに」「もう少し花笠は下のほうがきれいに見えるよ」などとアドバイスをしていたのは、「保存会」のメンバーで、ダンススクールを営んでいる**鈴木弘美さん**。

「会農生は、練習も一生懸命していますごく頑張っていると思います。」

この日の練習は本番さながらに行われ、全員が真剣な表情で取り組んでいた。

早乙女踊り保存クラブのメンバーが通う会津農林高校は、今年で創立110周年を迎える。母校の記念すべき日には、早乙女踊りも披露されることになっている。

「**去年よりは今年、今年よりは来年、という気持ちで、もっと多くの人に早乙女踊りの素晴らしさを知ってもらおうと活動してきました。私にとつて今年最後の早乙女踊りとなりますが、会農高校の歴史に、早乙女踊り保存クラブの足跡を残せることがとてもうれい**です。」

御田植祭前日までぐずついた天気が続き、当日も雨が心配されたが、栗村稲荷神社から道の駅あいづ湯川・会津坂下まで、多くの観客に見守られながら踊りの披露を終えることができた。

誇り高い担い手たちによって継承される早乙女踊りの未来は、雲間から差し込んだ光のように明るい。



1年生9名、2年生10名、3年生11名で構成される
早乙女踊り保存クラブの部長 大伴颯希さん



踊りのアドバイスを
する鈴木弘美さんと
踊り手の生徒

